



れんごう茨城

2023年2月24日

No. 133

発行 日本労働組合総連合会
茨城県連合会
(連合茨城)

発行人・高木 英見 / 編集人・大森 玄則
〒310-0022 水戸市梅香 2-1-39
TEL 029(231)2020 / FAX 029(227)8610

ホームページアドレス
<http://ws1.jtuc-rengo.or.jp/ibaraki/>



連合茨城会長

内山 裕

すべての働く仲間の
処遇改善をめざす
心合わせを大切にした
取り組みを展開！

日頃から連合茨城の各種取り組みに対しまして、ご理解とご協力を賜り、心から感謝と御礼を申し上げます。

本年も、定期大会で確認いただいた活動方針に沿って、連合茨城の活動の前進を期してまいります。引き続き、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

【政策制度課題の重要性を共有】

▶ 昨年は、7月10日に施行された「第26回参議院議員選挙」、11月20日投開票の「ひたちなか市長選挙」、12月11日投開票の「茨城県議会議員選挙」をはじめとして、各級選挙に取り組みました。

「堂込まきこ」参議院議員の誕生、茨城県議会議員選挙では連合茨城組織内議員の当選をはじめ推薦候補者への支援活動等、構成組織・地域協議会の絶大なご支援・ご協力によって、連合茨城として一定の成果を挙げることができました。私たちの日常を考えれば「くらし」も「働くこと」も、すべてが様々なルールによって成り立っています。私たちの生活を良くしていくためには、集団の労使関係が構築できていても、労使関係で解決できる範囲には限界があります。労使関係では解決できない課題解決を図るために、働く者・生活者の声を様々な視点から把握し、働く仲間の代表を各級議会に輩出していくなど、改善に繋げていく努力を継続していく必要があると思っています。

私たちが生活をしていくうえで、「政治に無関心でも、政治と無関係にはいられない」。このことを皆さんと共有しながら、今年第20回統一地方選挙の年ですので、連合茨城組織内候補者・推薦候補者全員の当選に向けて、連合茨城に結集する組合員・ご家族の皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

【すべての働く仲間に】

私たちは、連合茨城に結集し様々な取り組みの中で、構成組織・加盟いただいている組合員との情報共有を図りながら、意思疎通を大切に運動を展開しています。しかし、県内に働くすべての皆さんに、連合茨城の活動が届ききれていない現実もあります。すべての労働者の処遇改善に向けて、構成組織・地域協議会と連携を図り、有期・短時間・契約雇用労働者の労働条件改善についても積極的に取り組みたいと思っています。連合茨城に結集しきれていない働く仲間の皆さんに、私たちの声を届けられるように努力していきたいと思っています。一人で悩まないで、困った時に頼っていただける連合茨城をめざしていきたいと思っています。

【心合わせを大切に邁進】

連合は「2023春季生活闘争」の取り組みが本格的に始まりました。連合の基本方針は「未来づくり春闘」を深化させ、ステージを変える転換点とし、「働くことを軸とする安心社会」に向け、格差是正と分配構造の転換に取り組むとしています。

コロナ禍による影響が続いている産業や需要が、コロナ禍前に戻らない産業があることなども踏まえ、お互いのおかれた状況の違いを理解し合い、力を合わせて春季生活闘争を推進していくことが求められます。連合茨城としても構成組織・地域協議会との連携を図りながら、県内すべての働く仲間に対する処遇改善に繋げられるよう、努力していきたいと思っています。

各種課題は山積していますが、一つ一つ丁寧に確実に前進が図れるよう、決して平坦な道のりではありませんが、加盟組織との心合わせを図りながら邁進していきます。

CONTENTS

2023年 内山会長 挨拶	1
2023年 新春のつどい開催	2
茨城県経営者協会との定期懇談会	2～3
茨城県知事との政策懇談会を開催	3

第20回統一地方選挙推薦候補者	4
「2023年次代を担う組合員のための スキルアップセミナー」開催	5
連合緊急アクション「ラッピングカー地域巡回街宣」の 取り組みについて	5
何でも労働相談～労働相談事例から～	6

連合茨城

2023年 新春のつどい開催

1月6日(金) 水戸京成ホテルにおいて、構成組織、地域協議会、労働福祉団体、退職者連合の代表者や連合茨城が推薦・支持する国会議員と県議会議員など90名が参加し、連合茨城2023年新春のつどいを開催しました。

本年も、昨年と同様、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、参加者を限定した縮小開催となりました。

主催者を代表して挨拶に立った内山会長は、①昨年7月10日施行の「第26回参議院議員選挙」に対する構成組織への御礼、②2023年の連合茨城の取り組みについて、などを述べたうえで、「茨城のナショナルセンターとしての自覚を持って、構成組織・地域協議会との一層の連携を図り、すべての働く仲間を「まもり」「つなぐ」ための集团的労使関係の追求、社会に広がりのある運動の推進を第一義とした取り組みを展開したい」と思いを強調しました。そのうえで、各種課題が山積する中、確実に前進が図れるように、加盟組織との心合わせをしながら邁進することへ協力を求めました。

続いて、来賓の労働団体を代表して、茨城県労働者福祉協議会副会長・中央労働金庫常務理事の和田浩美様、推薦・支援議員を代表して、衆議院議員の青山大人様、浅野哲様、中村喜四郎様、参議院議員の堂込麻紀子様、小沼巧様より、それぞれご祝辞をいただきました。その後、昨年12月の茨城県議会議員選挙において、当選を果たした皆さまより、御礼のご挨拶をいただきました。

鏡開きの後、連合茨城千歳副会長の発声で乾杯を行い、和やかな雰囲気の中、それぞれのテーブルで賀詞交換や懇談が進められました。



連合茨城・内山会長



会場の風景



茨城県経営者協会との定期懇談会



茨城県経営者協会・笹島会長と
連合茨城・内山会長

2月7日(火) 15時30分から、水戸京成ホテルで、茨城県経営者協会との定期懇談会を開催しました。

連合茨城からは、内山会長をはじめ、副会長、担当執行委員、地協議長など20名、茨城経協からは、笹島会長をはじめ、役員15名が出席しました。

冒頭、両会長のあいさつで、連合茨城・内山会長からは、「賃金も、物価も、経済も、安定的に上昇する姿へ、ステージを変えた未来へとしていかなければならない。そのスタートは賃上げを中心とする『人への投資』に他ならず、実現に向けたうねりを創り出していく『ターニングポイント』となるのが、今次春季生活闘争である」と、春季生活闘争に向

2022年12月22日 木

茨城県知事との政策懇談会を開催

12月22日(木) 16時から水戸三の丸ホテルにおいて、茨城県との政策懇談会を開催しました。茨城県からは大井川知事をはじめ関係部局長、連合茨城からは、副会長、高木事務局長などが出席しました。

本年度は、長期化するコロナ禍、急激な円安の進行に加え、原材料や光熱費の高騰により、中小企業の経営を圧迫し、賃上げにも影響が出ている状況を踏まえ、①物価高騰に対する取り組み、②外国人労働者に対する環境改善支援、DX推進にあたり不足するデジタル人材の育成など、労働力不足に対応する人材確保や育成の取り組み、について積極的な意見交換を行いました。

テーマ ①物価高騰対策について ②人材確保・育成策について



2023年2月7日 火



「デフレマインドを払拭し、わが国の消費全体を回復・増加させるには、月例賃金の引き上げが重要」と久保田副会長（電機連合）



「労働組合の立場からも、パートナーシップ構築宣言のさらなる拡大に取り組む必要がある」と佐々木副会長（UAゼンセン）



「人材育成方針の明確化、教育訓練を受けやすい環境整備など、雇用形態にかかわらず『人への投資』が必要」と大関副会長（JP労組）

けた考えを述べました。

その後、内山会長から笹島会長に「2023春季生活改善労使交渉等についての要請書」を手交した後、意見交換では、①賃金引き上げの必要性について（久保田副会長）、②パートナーシップ構築宣言のさらなる拡大について（佐々木副会長）、③人材育成の充実について（大関副会長）、連合茨城の考えを訴えました。

最後に、連合茨城・茨城経協がともに諸課題について取り組んでいくことを確認し閉会しました。

第20回 統一地方選挙推薦候補者

4月に施行される第20回統一地方選挙において、働く者・生活者の声を行政に届けるため、以下の候補者を推薦いたしました。皆さまのご支援をお願いいたします。

2023. 2.16 現在

選挙名	選挙区	氏名	ふりがな	推薦組織等	所属政党	改選前
首長	日立市	小川 春樹	おがわ はるき	県北地域協議会	無所属	現2
	水戸市	高橋 靖	たかはし やすし	中央地域協議会	無所属	現3
議会	日立市	吉田 修一	よしだ しゅういち	基幹労連	無所属	現4
	//	白石 敦	しらいし あつし	電機連合	無所属	現3
	//	粕谷 圭	かすや けい	電機連合	無所属	現2
	//	助川 悟	すけがわ さとる	電機連合	国民民主党	現1
	//	堀江 紀和	ほりえ のりかず	電機連合	無所属	現1
	//	豊田 茂	とよだ しげる	電機連合	無所属	現1
	//	高橋 央	たかはし あきら	電機連合	無所属	新
	水戸市	佐藤 昭雄	さとう あきお	電力総連	国民民主党	現1
	//	萩谷 慎一	はぎや しんいち	自治労	立憲民主党	現1
	//	滑川 友理	なめかわ ゆり	中央地域協議会	立憲民主党	現1
	筑西市	三澤 隆一	みさわ りゅういち	中央地域協議会	無所属	現2
	//	小倉 ひと美	おぐら ひとみ	中央地域協議会	無所属	現2
	鹿嶋市	菅谷 毅	すがや つよし	自治労	立憲民主党	現2
	//	宇田 一男	うだ かずお	基幹労連	無所属	現3
	//	舩井 明宏	ますい あきひろ	基幹労連	無所属	現1
	石岡市	岡野 孝男	おかの たかお	自治労	立憲民主党	現5
//	村上 泰道	むらかみ やすみち	土浦地域協議会	無所属	現4	
土浦市	奥谷 崇	おくや たかし	U A ゼンセン	無所属	現1	
牛久市	黒木 亘子	くろき のぶこ	県南地域協議会	無所属	現6	
美浦村	山崎 幸子	やまざき さちこ	日本中央競馬関東労組	無所属	現3	

2023年

次代を担う組合員のための スキルアップセミナー

開催

連合茨城は1月20日(金)茨城県労働福祉会館にて、今後の労働運動を担う若年層組合員を対象に「2023年次代を担う組合員のためのスキルアップセミナー」を開催し、11産別から33名が参加しました。

セミナーは、下記の内容で行われました。

① アイスブレイク『労働福祉団体キャラクタークイズ』

連合茨城副部長 川城さおり

② 講義Ⅰ『職場の労働基準法について』

講師 連合茨城事務局長 高木 英見

③ 講義Ⅱ『職場の労働組合法について』

講師 連合茨城アドバイザー 山口 繁雄

④ 講義Ⅲ『連合に求められるものは』

講師 連合茨城会長 内山 裕

⑤ グループ討議 テーマ『組合活動への参加率を向上させるためには』

今回のセミナーを終えて、参加者からは「組合役員として知っておくべき法律や知識を勉強するいい機会になった。組合員の支えになれるよう知識をつけていきたい」「普段接することのない様々な産別の人と意見交換ができてよかった。」「労働組合が政治に関わる理由や政治に無関係ではいられないことを同世代の組合員へ伝えていきたい」など前向きな感想が多く寄せられました。



**連合緊急
アクション**

「ラッピングカー地域巡回街宣」の 取り組みについて

連合はコロナ禍において、賃上げの社会的波及、格差是正、生活困窮者支援が喫緊の課題であることから、構成組織・地方連合会・連合本部が一体となって取り組むことで、組合員はもとより、すべての働き暮らす人々に向けて連合の訴えを届け、賃上げと政策・制度要求の実現に向けた社会的な機運の醸成を図っています。具体的には、昨年12月1日に『賃上げ実現・暮らし支援 あしたを変える連合緊急アクション』をキックオフするとともに、本年1月12日からは全国キャラバン「連合ラッピングカー地域巡回街宣」の取り組みを行ってきました。

連合茨城も1月23日から25日までの3日間、地協事務局長・連合茨城常駐役員対応のもと、茨城県内全地協（7地協）エリアにおいて、地協の先導によるリレー方式での街宣活動を行い、賃上げや政策の実現を広く社会に訴えました。赤色のラッピングカーは、多くの人の目に留まり、取り組みの前進に向け一定の成果を上げることができました。



労働相談事例から No.22

2022年1月～12月の労働相談件数は、743件でした。コロナ相談の佳境だった2020年の970件には及びませんが、高止まりの状況がまだ続いています。毎年、相談で多いのはパワハラやいじめの「差別等」であり、2022年もトップでした。相談4件のうち1件はパワハラやいじめです。

相談者の業種を見ると、「医療・福祉」が製造業に続き全体の2番目になっています。医療・福祉がサービス業を上回ったのは初めてのことです。

数字を分析すると、特に、介護現場でのパワハラ問題が増加傾向にあることがわかります。

今回は介護施設で働く方からの相談で、施設でのパワハラ実態について取り上げます。



：相談内容

Consultation

ある企業が経営する介護施設で働いています。相談は施設長のパワハラについてです。

コロナの蔓延もあり、朝、子供が熱を出したため休むことを同僚に伝えると、施設長は「どうせ仮病だろ。子供をおいて出てこい」と携帯で怒鳴ってきました。コロナかもしれないので休むことを押し通すと、職場では「どうせあいつは、いてもいなくても一緒だ」と言っていたそうです。必ずこういうときは、夜に電話がかかってくる。その日も夜中の12時まで約2時間延々と小言を聞くはめになりました。精神的にもきついです。

施設長は入居者に対しても、罵詈雑言を繰り返しています。入居している皆さんも「あの人（施設長）怖いよな。俺たちも逆らわないから職員さんも我慢して辞めずにずっと面倒見てくれよな」と言ってきます。施設長によるパワハラは施設全体を「恐怖」に包んでいます。

また、4人の職員が月末に退職することになっています。私もその内の一人です。辞めないのは、施設長に媚びを売る一部の古参職員だけです。

：対応内容

Correspondence

退職することを決意するまでの経緯を聞くと、本社へのコンプライアンス相談とか、労基署への申立てなどの解決策があるのですが、効果が出たかどうかは定かではありません。

実際、施設内での実態を本社に訴えても、調査らしきこともせず、監査では口裏を合わせた取り巻きの職員が邪魔して、施設長は追及されなかったとのことですから、社内改善は難しいですね。

施設の利用者が、何人も退所させられているという介護施設は初めて聞きました。施設長に逆らうと利用者まで被害者になってしまい、利用者が退所する際は、職場に姿を見せず、ご家族にもあわないなど、無責任過ぎますね。

職員の退職についても、施設長の一方的な報告だけで済ますため、本社は許可してしまうとのことですから、本社窓口には施設長のパワハラ実態を赤裸々に伝えるしかありません。

ご自身を含め、退職する皆さんとお話が出来れば、連合茨城を窓口として本社に書面で訴えることは可能でしょう。これ以上、施設を利用する方や介護の仕事をする職員の皆さんの苦痛が増えないよう、本社には適正な処分を要請したいと考えていますがどうですか。